

## 【世界遺産】富士山本宮浅間大社を電気火災から守る 放電検出ユニット（スパーテクト）と感震ブレーカーを設置

日東工業株式会社（本社：愛知県長久手市、取締役社長 黒野 透、以下 日東工業）は、世界遺産「富士山―信仰の対象と芸術の源泉―」の構成資産の一つである富士山本宮浅間大社（静岡県）に静岡県東部電気工事協同組合と協力して「放電検出ユニット（以下 スパーテクト）」と「感震ブレーカー」を設置しました。

近年、電気火災の割合が増加傾向にあり、火災全体の30%（※）を占めています。こうした中、富士山本宮浅間大社において電気火災の未然防止を目的とする防火設備として選ばれました。

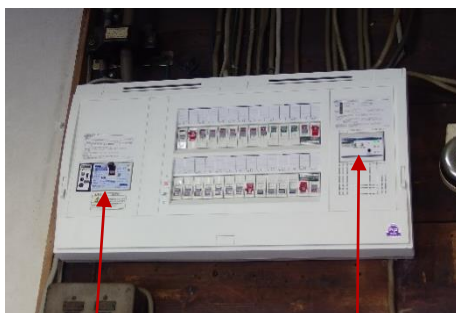
従来、電気火災防止を目的に行われているトラッキング対策は主にコンセントのみを対象としています。そのため、壁内配線や延長コードなどで発生する電気火災につながる要因を検出することはできませんでした。「スパーテクト」は、家屋内のトラッキングやケーブル断線、ショート（短絡）などで発生する火花放電を当社独自技術により検出し、電気火災を未然に防止する日本初の製品です。また、大地震による電気復旧時に発生する復電（通電）火災を防ぐ有効手段である「感震ブレーカー」を設置しています。

日東工業は、「スパーテクト」と「感震ブレーカー」の普及を通して、電気火災の未然防止に貢献し、世界遺産に登録されている富士山本宮浅間大社をはじめ、歴史のある建造物などを保全・継承し、地域社会の安全な暮らしのサポートを進めていきます。

※東京消防庁管内 統計

### ■設置内容

- ・設置製品：スパーテクトと感震ブレーカーを搭載した電灯分電盤
- ・設置場所：社務所



感震ブレーカー

放電検出ユニット  
(スパーテクト)

### ■富士山本宮浅間大社 甲田宮司から設置に関して

近年、電気が原因と思われる文化財の火災報道が続いており、危機意識をもつようになっていた。当大社は、世界遺産富士山の構成資産として重要であり、保全・継承するためにこのような新しい技術も取り入れていきたい。



甲田吉孝 宮司

## 【参考】

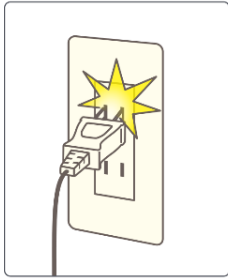
### ■火花放電の発生要因と機器の保護範囲

ケーブルなどの経年劣化や不適切な取り扱いなどにより、配線周りでの電気火災が多発しています。

#### <従来機器の保護範囲>

各コンセント部に機器が必要です。

#### — トラッキング —

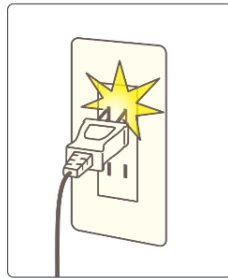


■ホコリが吸湿

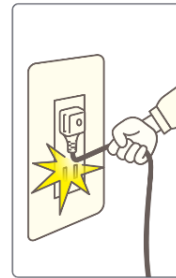
#### <放電検出ユニット（スパークテクト）の保護範囲>

一般住宅の場合、1台でトラッキングだけでなく壁内配線など目視が困難な箇所が発生した火花放電を検出します。

#### — トラッキング —



■ホコリが吸湿

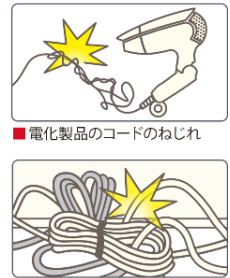


■ムリな引っ張り

#### — 短絡・断線 —



■施工時のケーブル損傷



■束ねた電源ケーブル類



### ■放電検出ユニット（スパークテクト）の機能

#### 検出時にお知らせ

火花放電検出時には、ブザーとLEDでお知らせします。



#### 検出時に自動遮断

漏電ブレーカの自動遮断が選択できます。



#### 監視装置\*と連携可能

接点出力により、各種機器と連携できます。  
(例：メール通知など)



※監視装置はお客様にて別途ご用意していただく必要があります。

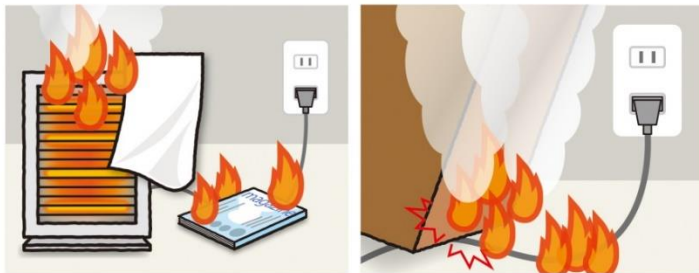
### ■感震ブレーカーとは

一定以上の震度の地震が発生した時に、自動的に電気の供給を遮断し、電気が原因による火災を防ぐ機器全般のことです。



### ■復電（通電）火災とは

停電が発生し、その後電気が復旧した際、可燃物が落下した電気ストーブや破損した電源コードなどに再び電気が通ることが原因で火災が起きる現象。



電源コードの被覆が破れて短絡（ショート）により発火

以上